

すべての事業で世界の ナンバーワンを目指し、 あらゆる変化を乗り越えて 持続的な成長を実現してまいります。

2017年3月期の当社アニュアルレポートをお届けいたします。

世界経済は益々不透明感を増しており、企業を取り巻く状況も刻一刻と変化しています。このような状況の中で、私どもは絶えず現状を見直し、時代の変化に柔軟に対応しながらさらに高い目標を掲げ、進化し続けることに取り組んでおります。そしてあらゆる経営努力を通じてそれぞれの事業において好機を見出し、持続的な成長を実現してまいりました。その結果、2017年3月期におきましては、6つのセグメントすべてで増益を達成し、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも7期連続の増益を果たしました。なお、私どもは経営努力の成果を正當に株主の皆さまに還元することを基本方針としており、当期の年間配当金は前期に比べ10円増の1株当たり120円といたしました。

当社グループでは、汎用樹脂である塩化ビニル樹脂（塩ビ）、IT分野を支える半導体シリ

コン、汎用製品とハイテク製品の性格を併せ持つシリコーンを主力3事業としております。これらに加え、合成石英、レア・アースマグネット、セルロース誘導体、さらにはフォトレジストやマスクブランクスなどの新規製品も育成してまいりました。こうしたバランスのとれた事業構成のもとで、技術、製造コスト、品質、安定供給など、事業のあらゆる面において差別化を図り、世界トップの製品づくりに向けて、技術革新や積極的な設備投資などに励んでおります。本アニュアルレポートでは、当社の事業概況を紹介しながら、その市場優位性もお伝えしてまいります。

それに先立ちまして私どもの経営の考え方について、ご説明させていただきます。私どもは、企業価値の最大化に向けて、あらゆる努力を払っておりますが、そこで最も重視している指標が、利益成長です。激しく変化を続ける市

場環境下においては、成長をし続けること自体がもとより容易ではありません。しかしながら、当社は、迅速な意思決定、積極的な設備投資、リスク分散といった基本姿勢を堅持することで、安定的な成長を続けております。最も高い品質の製品を競争力のある価格で提供することを追求しながら、世界的に激しさを増す競争を勝ち抜ける強固な事業体質の構築に取り組んでおります。

その取り組み事例の一つとして、私どもの米国子会社であるシンテックをご紹介します。1974年に米国内で最後発の塩ビメーカーとして事業をはじめました同社は、その後、「フル稼働、全量販売」に徹するとともに、積極的な設備投資を計画的に進めたことで、世界最大の塩ビメーカーへと成長しました。シンテックは、当社グループの連結経常利益の約3分の1相当の高い利益をあげるなど安定した業績を生み出し続けています。シンテックの成長の要因は、きわめて合理的な人員構成と、最新技術による設備の更新と増強にあります。ダウケミカルの社長兼CEOを務め、1980年6月からシンテックの取締役にも就任されたベン・ブランチ氏は、こうしたシンテックの経営を、「シンテックは初めから“リストラ”された会社だ」と評されました。2016年3月期には、米国ルイジアナ州にある、電気分解から塩ビモノマー、塩ビまでの一貫生産設備の増強を完了させ、その塩ビ生産能力は、シンテック操業開始時の30倍にあたる年産295万トンとなり、世界最大の塩ビメーカーとしての地位をさらに強固なもの

にしました。同社は米国内での雇用創出に加え、地域社会に対してもさまざまな形で貢献すべく注力しており、米国社会とともに今後さらに安定した成長と発展を目指してまいります。

当社は、2026年には創業100年を迎えます。この重要な節目に向けて、私どもは常に進化し、発展し続けることを目指しております。すべての既存事業においてより高い目標を掲げ、世界のナンバーワンを目指すと同時に、将来の柱となる事業の育成にも取り組んでまいります。

皆さまには当社事業につきましてご理解をいただき、引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役会長

金川千尋

社長メッセージ

すべてのセグメントで増益を達成し、 さらなる成長に向けた 基盤強化の1年となりました。

代表取締役社長

青藤 恭彦



信越化学グループの当期の売上高は、為替の影響を除いた現地通貨ベースでは前期比4.4% (565億円)増加しましたが、円高の影響で円換算ベースでは同3.3%(424億円)減少し、1兆2,374億円となりました。生産、出荷ともに各事業を通じて堅調で、2桁増益に貢献しました。当期の営業利益は同14.4%増加の2,386億円、税金等調整前当期純利益は同10.1%増加の2,421億円、当期純利益は同18.6%増加の1,783億円でした。

2010年3月期以来の7年間で、税引前利益で1,151億円(年平均成長率9.7%)、当期純利益で945億円(年平均成長率11.4%)の増益を達成し

ました。また、ROICは前期比2.6%ポイント上昇の14.0%、ROEは同1.0%ポイント上昇の8.5%となりました。

当期はすべてのセグメントにおいて増益を達成することができました。これにより、今後のさらなる成長のための基盤が強化されたと考えています。当社グループは当期におきまして、2008年3月期に達成しました過去最高益の約80%の利益水準まで回復しました。引き続き最高益更新に向けて毎日、毎月そして毎年の経営を着実に実行してまいります。対2008年3月期のセグメント別営業利益比較は次の通りです。

(億円)

セグメント	当期(2017年3月期)	過去最高を達成した2008年3月期
塩ビ・化成製品事業	531	339
半導体シリコン事業	559	1,413
シリコン事業	425	374
電子・機能材料事業	552	407
機能性化学品事業	222	174
加工・商事・技術サービス事業	95	166
合計	2,386	2,871

(注) 2011年3月期にセグメント区分を変更していますが、2008年3月期の金額は現行のセグメントに合わせて組み替えたものです。

当社グループの現在の事業構成は、2008年3月期には半導体シリコン事業の利益が約半分を占めていましたが、現在は4つの事業セグメントが均衡し、バランスの良い事業ポートフォリオとなっています。

当社グループでは、世界中の生産拠点において安全・品質第一の考えのもと、高稼働の操業を

続けています。グループ全体で約19,000名の意欲的で熱心な従業員が各拠点で日々の業務に取り組む、お客さまに高品質の製品をお届けしています。また、従業員を対象にした能力開発やさまざまな研修制度を設けるなど、当社グループでは人材育成にも積極的に取り組んでいます。

積極果敢な成長投資

当社グループは、将来の成長に向けた設備投資を引き続き積極的に計画し、取り組んでまいります。

1 当期に完成した主な設備投資

塩ビ・化成品事業

米国(ルイジアナ州)において、投資額5億ドルの塩ビおよび塩ビの原料工場の生産能力増強工事が、2016年12月に完成。

.....
増強した生産能力は塩ビ年産30万トン、塩化ビニルモノマー年産30万トン、か性ソーダ年産20万トン。増設後のシンテック社の塩ビの生産能力は、ルイジアナ州とテキサス州の工場を併せて年産295万トン。

電子・機能材料事業

中国(湖北省)において、投資額125億円の光ファイバー用プリフォーム工場の新設工事が、2016年12月に完成。

.....
中国で拡大する光ファイバー需要を捉えるため、プリフォームの事業メーカーである当社と光ファイバーおよび光ケーブルで中国最大のYOFCC社が合併会社を設立。

電子・機能材料事業

日本(福井県)において、投資額70億円のマスクブランクス工場の新設工事が、2016年秋に完成。

.....
この投資により生産能力は2割程度増加。半導体デバイスの生産量増加や微細化の進展により、増加するマスクブランクス需要を捉え、生産拠点複数化による安定供給にも寄与。

2 進行中の主な設備投資

塩ビ・化成品事業

米国(ルイジアナ州)において、投資額14億ドルで塩ビ主原料の一つであるエチレンの工場を建設中で、2018年半ばに完成予定。

.....
生産能力は年産50万トン。この投資により、主原料の安定調達強化され、かねてから進めてきた原料からの一貫生産体制が、より強固なものに。

シリコン事業

タイ(ラヨン県)において、投資額200億円のシリコンの生産能力増強工事が、2018年内に完成予定。

.....
タイのシリコンモノマーの生産能力は、現在の年産7万トンから5割増の10万5千トンへ。同時にタイのシリコンポリマーの生産能力は、年産5万4千トンから約4割増の7万4千トンへ。



シンテック社 プラクマン工場(米国・ルイジアナ州)

積極果敢な成長投資

2 進行中の主な設備投資(つづき)



シンエツ・マグネティック・マテリアルズ・ベトナム社（ベトナム・ハイフォン市）

シリコン事業

日本（群馬県、新潟県）において、投資額200億円のシリコン機能製品の生産能力増強工事が、2018年3月までに順次完成予定。

研究開発から試作、そして量産の各段階の設備を増強し、世界で拡大している高性能シリコン製品の需要を着実に捉える。

電子・機能材料事業

台湾において、投資額130億円のフォトレジスト関連製品の工場の新設工事が、2018年秋に完成予定。

半導体デバイスの生産量の増加や微細化の進展により増加するフォトレジストの需要を捉え、生産拠点の複数化による安定供給にも寄与。

電子・機能材料事業

ベトナム（ハイフォン市）において、投資額50億円のレア・アースマグネット工場の増設工事が、2018年半ばに完成予定。

2015年に完成した年産1,100トンの工場の生産能力を2倍の2,200トンにするための第2期工事で、原料の精製から成型、焼結までの一貫生産を拡充する。

3 当期に決定した主な設備投資



マスクブランクス工場（日本・福島県）

シリコン事業

日本（新潟県）において、機能性シラン工場を新設。投資額は23億円で、2018年3月完成予定。

樹脂改質用シラン、シランカップリング剤などの需要増に対応し、機能性シランの少量多品種生産の工場を新設。

加工・商事・技術サービス事業

信越ポリマー糸魚川工場（新潟県）において、ウエハーケースの生産能力を増強。投資額は34億円で、2018年秋ごろの完成予定。

ウエハーケースの需要増に備え、より一層の安定供給体制を確立する。

信越化学グループを支える技術者の育成

秋谷副会長が委員長を務めるG委員会は、当社グループの競争力をさらに高めるために、安全、品質、コストを念頭に、合理化に取り組んでいます。秋谷委員長は定期的に信越化学およびグループ会社の工場を訪れ、次に述べる活動方針のもと、中堅、若手技術者を直接指導し人材育成に注力しています。

現状を「是」とすることは、過去の遺産の上にぐらをかきことである。

技術者は、現象を正確に理解し、原理原則にのっとり、過去の事例から学んだことに加え、最新の情報技術を活用して、問題点の改善に取り組むこと。

工程を変えることの恐ろしさを知り、変えることによって生じるメリット、デメリットを検証し、改善に取り組むことが重要である。

これらを繰り返すことで技術者としてのレベルを上げ、プロの技術者になってほしい。

合理化に終わりはない。

このようなG委員会の活動は、生産性を高めることに寄与するだけではありません。同時に、省エネルギー、省資源、廃棄物削減も目的としており、着実に成果を挙げることで環境負荷低減にも貢献し、当社グループの競争力を高めています。

たゆまぬ研究開発の取り組み

私たち製造メーカーが発展していくためには、新しい製品を開発することが重要です。当社グループでは研究開発活動に力を注いでいます。当期の研究開発費は490億円で、売上高比で4.0%でした。また当期の特許取得件数は2,022件でした。当社グループの研究者は、日々の研究活動を通じてお客さまや社会に貢献することに熱心に取り組んでいます。

今後とも、当社グループがさらなる成長を遂げることで、株主の皆さま、お客さま、お取引先さま、地域社会の皆さまのご期待に応えてまいります。事業の拡大と業績の向上に向けたさまざまな取り組みを行うとともに、引き続きお客さまのニーズに応え、コーポレート・ガバナンスの向上、地域社会に対する責任を果たしてまいります。

株主の皆さま、お客さま、お取引先さま、地域社会の皆さまにおかれましては、当社グループの活動に対して、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。